

地域力パワーアップ大会

～広げよう！まちづくり協議会の輪～

日時 平成27年6月28日（日）13時30分～16時00分

場所 北条市民会館 大ホール

主催 松山市（市民参画まちづくり課）

後援 松山市教育委員会

目的 松山市では、住民主体のまちづくりを推進するため、地域活動を行う町内会や公民館、地区社協、PTAなど各種団体や個人・企業等を、ゆるやかなネットワークで結ぶ住民自治組織「まちづくり協議会」の設立や運営支援を行っています。この大会を通じて「まちづくり協議会」とは何か、その取り組みを分かりやすく紹介し、市民に広く知ってもらい、地域のまちづくりについて考える機会となるよう開催します。

出席者

《松山市》

野志市長、西泉副市長 ほか

《来賓》

松山市議会議員	市民福祉委員会	委員	清水尚美	氏
松山市公民館連絡協議会		会長	橋本英厚	氏
松山市地区社会福祉協議会連絡会		会長	上原光代	氏
松山市地域協働団体連絡会		会長	池田秀雄	氏
松山市自主防災組織ネットワーク会議		会長	吉金 茂	氏
松山市小中学校PTA連合会		会長	杉原美由紀	氏

《事例発表》

潮見地区まちづくり協議会	事務局長	藤本次郎	氏
北条地区まちづくり協議会	事務局長	安藤光夫	氏
中島地区まちづくり協議会	会長	濱田勇二	氏
桑原地区まちづくり協議会	事務局長	朝山和孝	氏
正岡地区まちづくり協議会	事務局長	杉浦久雄	氏

《意見交換》

上記事例発表者5名（潮見地区のみ中西恒博氏に交代）

松山市コミュニティ・アドバイザー	讃岐幸治	氏
	若松進一	氏
	前田 眞	氏

来場者 約320名

司会：藤井美穂（市民参画まちづくり課）
山口智之（清水地区まちづくり協議会 学生活動局長）

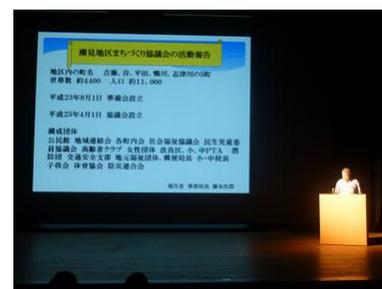
内容

1. 開会挨拶（野志市長）
2. 来賓紹介
3. 大会目的・プログラム紹介
4. 第一部 事例発表



●潮見地区「まちづくり協議会と各種団体の関わり」

- ・準備会検討段階では疑問や否定的な意見が出た。（公民館がなくなる、まち協会長が一番位が高い、既存団体の活動が制約されるなど）
- ・解決のため、まち協会長には公民館長や地域連絡会の代表者を選任しないことや、公民館活動や町内会活動との区別を明確にしていくことになった。
- ・ホームページを開設し、構成団体の活動を紹介している。
- ・交付金は構成団体に浅く広く振り分けている。
- ・まち協独自の活動を紹介（ふれあい農園、「潮見ふるさと音頭」歌碑、DVDの作成など）
- ・事務局体制についての問題提起（今後の発展を考えると、事務局の体制強化が必要）



●北条地区「ふるさとCM大賞で北条の魅力発信」

- ・良い活動にしても、役員だけが知っているのはだめ。
- ・紙媒体（かわら版）を全戸配布するも、即効性なく、SNS（フェイスブック）の活用を開始。
- ・ただし、興味がないと見てくれないツールであるため、まちづくり情報だけでなく、「北条（ふるさと）の良さ」を発信。
- ・「北条の良さ」＝「鹿島」とし、鹿島を活用した各種活動（御野立の巖、榴練り、夫婦岩のしめ縄交換、願い文など）を写真や動画をたくさん使用し、見る人が飽きない工夫をしている。
- ・ふるさとCM大賞に応募するも、2回続けて落選。3回目で特別賞を受賞。
- ・今後も精力的に情報発信を続けていく。



●中島地区「トレッキングコースの施設整備」

- ・中島本島西部の宇和間地区にあるビューポイントまでの遊歩道が未整備で危険。地元住民の要望もあり整備へ。(瀬戸内有数の潮流や、綺麗な夕日、多島美が一望できる)
- ・丸太階段を打ち込み、「トレッキングコース」として整備する。
- ・地元住民と移住者とがボランティアで協力して実施した。
- ・愛媛新聞記事(観光客コメント「久々の絶景だった」)の紹介。
- ・観光客の増加が期待できるが課題もある。(維持管理や情報発信、イベントでの利用促進など)
- ・地域資源を守り育て、島の活性化につなげていきたい。



●桑原地区「福祉マップで人にやさしいまちづくり」

- ・大学(松山東雲短期大学)と連携し、福祉マップを計画。
- ・何をマップに掲載すべきか、まちづくり通信で公募し、まちあるきを実施。(車いすや乳母車を使用し、公道の危険性を確認)
- ・四国交通(タクシー会社)や愛媛銀行バイク隊、自主防災連合会、地域包括支援センターの協力も得る。
- ・防災マップと区別し、福祉に特化したものとした。(病院の連絡先、診察時間など記載)



●正岡地区「地域の宝みがき 八竹山整備」

- ・八竹山の説明(位置、眺望、歴史など)
- ・地域の宝みがきサポート事業により案内看板を設置。
- ・平成24年度より正岡小学校6年生による桜の植樹を開始。卒業記念の恒例行事として継続している。
- ・その他、正岡小学校の総合学習や遠足で使用されている。
- ・平成26年度には狼煙上げを実施。
- ・課題(道路の舗装、トイレ整備、維持管理など)
- ・「いっしょにやろや」の合言葉で、地域の宝を後世に残していきたい。



5. 第二部 意見交換

●『情報発信の仕方』と『ものがたりづくり』について

若松氏は、青島(大洲市)が、猫をテーマとしたテレビ番組がきっかけで「猫の島」として脚光を浴びたものの、島外からの観光客が詰め寄せて定期船が定員オーバーになったことや、猫に餌をあげたりするマナー違反などが横行し、地元が困惑していることを例に挙げ、間違った情報がまことしやかに発信され、「思った通りに伝わらないし、共有することが難しい」と語った。また、中島地区や正岡地区が綺麗な夕焼けに着目して活動していること



について、「10年、20年続けていくためには、『ものがたり』がないと続いていかない」と「ものがたりづくり」の重要性を指摘した。

これを受け、各地区の登壇者より以下の意見が出た。

潮見「まちづくり通信の全戸配布とホームページ（閲覧数は少ない）の開設。また、各構成団体を通じて情報発信をしている」

北条「鹿島の観光客は、昔は15万人。それが3万人に減り、今年は5万人に増えた。まち協がPRをしてイベントを開催した成果である。春まつりは地域住民が実行委員会を立ち上げ、地域の力を合わせて情報発信した。まずは知ってもらうことから始める」

中島「他地区のようにフェイスブックやホームページがない。今後活用してアピールしていきたい」

桑原「桑原もまちづくり通信とホームページをやっている。ただし、ホームページは大学生の都合が悪く更新できていない。今後は愛媛大学農学部や私立大学からも有志を募集し、地元愛を高めていく予定。

『ものがたりづくり』については、淡路ヶ峠に桜が1,000本ある。中学校との活動を続け、『また登りたい』と思ってもらえるようにしていく」

正岡「まちづくり通信は年3回発行。ホームページはない。立岩川のホタルの里には、ホタルを増やして有名になり、送迎バスも出る。秋祭り（河野氏まつり）は構成団体によるホームページがあり、閲覧できる。

『ものがたりづくり』については、八竹山を利用した活動で、今の子どもたちに子ども時代の記憶を残してあげて、親しめる場所にしていきたい」

●愛着を育てるための積み重ねについて

讃岐氏は、「“まちをつくる”ことは、愛着がないと無理なこと。その地区を好きになるかどうかは、そこを“知っているかどうか”で決まる。地区の特性や価値をどう認識し、共有して、磨きをかけていくか、ということが大事。都市部の情報はよく分かっているが、地方のことは知られていない」とコメント。



桑原：「同じことを繰り返すことが大切。中学校から要望があれば、まち協から講師を派遣している。生徒会とPTAで会合を開いてもらい、出た意見をまちづくりに反映させている」

中島：「『中島ふるさとかるた』をまち協で作し、俳句（読み札）は中学生が考えた。かるたの内容は地域のことを書いたものであり、郷土愛を学ぶ機会になったと思う」

北条：「小学校の道徳の時間に呼ばれ、『どうしてまちづくりをするの？』と質問された。私は県外で生活していたが、地元に戻った時に、北条の良さに気付いたので『このまちが好きだから』と答えた」

潮見：「私は潮見で生まれ育った。大型案内看板や昔の写真を冊子にした『昭和の原風景』『潮見ふるさと音頭』のDVDや歌碑などを作成したので、この地区を知って、好きになってもらいたい。」

●まちづくりの難しさについて

若松氏は、自身が企画した双海の「夕焼けコンサート」について、反対意見の多い中で実行した苦労話を語った。そして、まちづくりのキーワードとして、「楽しいこと」「美しいこと」「新しい事」の3つを挙げた。



讃岐氏は、「なぜまちづくりが必要になったのか」その理由として、「行政依存」「無関心」「エゴ」の3つを指摘。また、「従来のまちづくりは公民館が担ってきたが、公共の課題に対する取り組みが薄かった」「公民館とまちづくり協議会が両輪となって進んでいかないとうまくいかない」と語った。

潮見：「まち協はピラミッド型ではなく、円形とし、約30の団体は仲間である。まちづくりは“まち協”がやるのではなく、各団体がやる。手伝ってもらえる組織を探し、仲人する、つなぐ役割をするのであり、命令をする立場ではない。」

讃岐氏からは、「公民館活動には、金儲けが出来ないという足かせがあるため、住み分けをうまくやればいい」という助言。

若松氏からは、「コミュニティには『ローカルコミュニティ(公民館)』と『テーマコミュニティ(まち協)』との2つがあると考え、私の地元ではその住み分けをやっている。そうしないと、潮見地区のような“憶測”や“懸念”が出てくると思われるが、リーダーがそこをしっかりとわきまえればうまくいくだろう」と語った。

北条：「まちづくりで大事なものは『協力』『支援』『不足を補う』の3つであると考えてる」

●アドバイザーへの質問

①専任の事務局について

正岡：「まち協には専任のスタッフがおらず、地区の何らかの役を兼任しているが、他の地区はどうか」

北条：「私はつきっきりでやっている。“まちづくり馬鹿”がいないといけないのかなと思う」

潮見：「事例発表をした事務局長は専任。事務所があり、午前中は常駐している。おかげで浸透したのか、認知されるようになってきた。もっと事務局体制を充実させたい」

中島：「専任はいないが、その都度、各団体の代表者を集めて協議している」

桑原：「私が事務局長だが、片手間以上の仕事をしている。情報発信をするとなると、(問い合わせに対する)受け皿が必要となる。今はいろいろなところからたくさん電話がかかってくるようになったので、専任が必要になる時がいつか出てくるだろう。今は公民館に協力してもらっている」

前田氏は、専従に近い形でないと仕事が回っていかないと聞こえる。事務局の苦労は、なかなか周りに理解してもらえないものである、と答えた。

②災害対策とゴミ対策について

桑原：南海トラフ巨大地震に対し、「福祉」と「安心安全」の分野で、一体型の対応をどのようにしていくのか。避難場所は指定されているものの何もなく、どのように生活するかが課題。自主防災組織連合会とまち協が考えていく必要があると考える。



また、ごみ減量の政策を松山市は発表しているが、その対応が地域にまだ下りてこない。カラスやイヌ、ネコの問題があるが、地域としてどう取り組むか、どう美しくするか、どう汚くしないかを考えないといけないが、それを聞きたい。

若松氏は、元日本国際文化センター所長で宗教学者の山折哲雄氏の3つの視点（地域づくりでの『手作りで作る』『身銭を切る覚悟』『出前をする精神』）について紹介。そういう思想を、私たちは市民運動として起こしていかないといけないし、そういう思いを込めて地域づくりをする人たちの土壌を増やすことも大切と説明。また、山折氏が『自由に語り合える空間』『若い世代に既得権を譲る』という2つの視点が必要とも語っており、「私は『まちづくり学校双海』を作ったが、学ぶことが前提になっていないまちづくりは成果が上がらないのではないかと思う。そして、学校での取り組みを通して、次第に自分のまちを変えていかないといけないと考えるようになった」と答えた。

6. インフォメーション（地域づくり支援セミナーについて）

松山市と愛媛大学の共同事業「地域づくり支援セミナー」（平成27年6月開催 全4回）で実施した内容を紹介。防災についての当事者意識を持つことができたことと、地域課題について情報共有できたことを報告した。

テーマ：防災

内 容：松山市の防災・減災への取り組み 地域におけるまちづくり制度
道後喜多町町内会の自主防災活動 もし明日地震が起きたら（ワークショップ）
他市町の事例から見た気づき（ワークショップ）
石井地区の避難行動要支援者支援 南海トラフ巨大地震・被害想定
栗井地区まちあるきとグループワーク

7. 閉会挨拶（西泉副市長）

